

郡中御影報恩講 2025年5月24日(土) 勤修

まいろっさ

第5号

郡中御影さまの

おとーりー

彼の如来の本願力を観ずるに、凡愚、遇うて空しく過ぐる者無し。
一心に専念すれば速やかに真実功德の大宝海を満足せしむ。

(親鸞聖人『入出二門偈頌文』
『真宗聖典第二版』545頁)

※親鸞聖人影像の上部讀「観彼如来本願力凡愚遇無空過者一心専念速満足真実功德大宝海」(教如上人直筆)の書き下し文です。

真宗大谷派(東本願寺)
小松大聖寺教務所
〒923-0904
小松市小馬出町26
TEL: 0761-22-0555
[発行者]
小松大聖寺教務所長
宮尾隆造
[編集]
小松大聖寺教区教化委員会

特集 郡中御影報恩講

郡中御影報恩講法話

文禄四年の教如上人



同朋大学教授
安藤 弥氏

能登半島地震災害支援

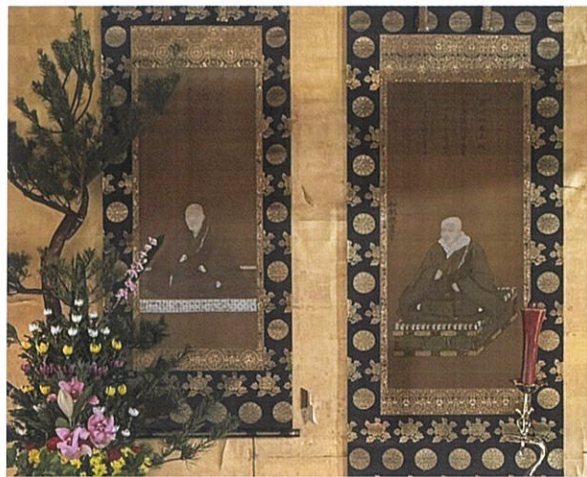
ボランティアレポート

「僧伽・散華会」

慶讃法要レポート

- ・大聖寺地区花まつり
(加賀市願成寺)
- ・第一組花まつり
(小松市興宗寺)

教区からのお知らせ
聞法会のご案内など



特 集
郡中御影報恩講

文禄四年の教如上人

同朋大学教授 安藤 弥氏
あんどう わたる

郡中御影

文禄四（1595）年に教如上人から、石山合戦とともに戦った加賀国能美郡四日講に授与された親鸞聖人影像と顕如上人影像の二幅を併せて「郡中御影」と呼びます。

親鸞聖人の御影像は三狭間の礼盤（高座）上に敷かれた纏綱縁の上畳に斜め右向きで座しています。これは御坊（別院）格のお寺に特別に授けられる描かれ方です。みんなが集い、お勤めをする場に、大切な親鸞聖人の御影が三狭間の礼盤で授かっているということはとても大切なポイントです。一方の顕如上人影像は小紋高麗縁の上畳に斜め右向きに座しております。それぞれ教如上人授与を示す裏書が別幅で残っており、親鸞聖人御影には「加州能美郡四日講惣道場物也」とあります。惣道場とありますから伽藍がなかったとしてもそこは門徒が集う道場です。雨の日も晴れの日もどんなことがあったとしてもお勤めされ

てきたのが郡中御影報恩講だと伺っております。

本願寺12代目

東本願寺の創立者である教如上人は本願寺12代目になります。永禄元（1558）年9月16日に大坂石山本願寺で誕生しました。永禄二三（1570）年13歳で得度し本願寺の後継ぎとして歩み出しますが、その年織田信長との石山合戦が勃発します。教如上人は13歳から23歳の11年間を石山合戦の最中成長していきます。天正八（1580）年、父顕如上人は勅命講和を受諾し大坂から退去しますが、

教如上人は籠城を続けること（大坂拘様）を決意し各地の門徒に呼びかけます。それに応えて加賀門徒、三河門徒はじめ各地の門徒たちが教如上人とともに戦おうと支援や参戦をしました。

その後教如上人はやむなく大坂を退去し、紀州鷺ノ森の顕如上人と合流しようとはしますが、合流かなわず諸国を流浪（秘回）することになります。加賀・越中の山奥、飛騨高山な

ど中部山村で宗主活動をされていたらと見られています。

天正一〇（1582）年に本能寺の変が起こります。信長の死後、顕如上人と合流した教如上人は豊臣秀吉との関係を結んでいくことになりました。顕如上人と教如上人は、秀吉の命で紀州鷺ノ森から和泉貝塚そして大坂天満に移って本願寺を再興し、天正一九（1591）年に今の西本願寺の地に移ります。

翌文禄元（1592）年御影堂上棟の年に顕如上人が亡くなり、後を継いだ教如上人は、豊臣秀吉から朱印状を受け取り本願寺住職として歩み出しました。

門徒とともに

ところが、文禄二（1593）年9月、教如上人の実母如春尼が、三男准如上人に本願寺住職を譲ると記した顕如上人の譲状があると秀吉に訴えます。

豊臣政権は教如上人とその家臣団を大坂に呼び出し、石山合戦のとき勅命に背き信長公の大敵であつ

たこと、側室を抱え不行儀であること、住職を十年後に弟の准如上人に譲ること等々十一箇条にわたって伝えました。教如上人は受諾しましたが、家臣が讓状に不審を申し立てると即刻隠退を命じられることになりました。

教如上人は北の屋敷に移り、わずかな家臣団と御堂でお勤めを絶やすことがなかったと家臣の覚書に書かれています。事態を受け入れたがそのまま隠退するのではなく、教えをいただいていく身は変えない、一緒に戦国乱世を生き抜いてきた門徒さんとともにという教如上人の在り方があるわけです。そのような教如上人に会いに行く寺院方、ご門徒が絶えなかったといわれています。このような動きがその後、文禄四(1595)年につながっていきます。



文禄四年

教如教団のスタート

教如上人は、法宝物授与という宗主活動を文禄二年9月までは盛んにしていました。隠退直後の10月以降はしばらく控えています。文禄四年になると増え、摂津国、尾張国東海地域、加賀越中に授与され、法宝物授与が再び活性化していきました。

なかでも象徴的な法宝物が加賀門徒がいただいた郡中御影とりわけ親鸞聖人の御影像であろうかと思えます。格式高く描かれた親鸞聖人の御影を掲げて教えとともに聞いていこうとする加賀門徒と教如上人の深い繋がりが確かめられてくるわけです。文禄四年は、門徒集団と上人の再出発、教如教団のスタートであったと考えられます。

この年、豊臣政権による「大仏千僧云」が執行され、准如上人は出仕しますが、教如上人は出仕を望むも准如上人に拒まれ、あらためて自分の歩みをしていくしかないことを確かにされたのではないのでしょうか。

文禄五(慶長元・1596)年、教如上人は、摂津渡辺で「大谷本願寺」と刻

む釣鐘を鑄造し大谷本願寺を名乗り始めています。慶長二(1597)年に徳川家康を茶会に招き政治的にも新しい動きを始めます。慶長三(1598)年には秀吉が亡くなり政治状況が変わりました。慶長四(1599)年に教如上人は自らの名前で正信偈と三帖和讃を開版します。この頃、北の屋敷地には両堂があり、お勤めを始めていたと思われます。

翌慶長五(1600)年、関ヶ原の戦いの年に御堂日記の執筆が御堂衆により開始されています。教如上人とその門徒集団による本願寺が東に移る前に北屋敷に成立していたのです。

東本願寺の創立

慶長七(1602)年、教如上人は

徳川家康から御本山の現在地、烏丸六条の寺地寄進を受けます。慶長八(1603)年正月、上野国厩橋の妙安寺から三河門徒によって運ばれてきた親鸞聖人御真影をお迎えし、6月8日に北屋敷から新しい東の寺地

へ移ります。11月10日に阿弥陀堂の遷仏式が勤まりました。北屋敷の御堂を解体して運び組み立てたことが御堂日記に書かれており、北屋敷の本願寺が東の寺地に引っ越して再出発したことがわかります。

翌慶長九(1604)年、御影堂が建ち御影堂遷座式が9月16日、教如上人の誕生日に勤修されました。御影堂と阿弥陀堂の両堂が成立したこの日をもって東本願寺の創立と考えてよいのではないのでしょうか。

石山合戦の終わりに教如上人とともに歩む門徒集団の始まりがありました。その後上人とともに歩んできた私たちの先祖、東本願寺門徒集団による主体的な教団の独立であると感じていくことが何よりも大切であると思います。



十字名号と教如上人

尽十方無碍光の
大悲大願の海水に

煩惱の衆流帰しぬれば
智慧のうしおに一味なり

親鸞聖人 曇鸞和讃

この御和讃を教如上人はとても大切にされ、十字名号の両脇に書き添えています。「尽十方無碍光の」というのは阿弥陀仏のことです。帰命尽十方無碍光如来という十字名号です。南無阿弥陀仏であれば六字名号です。正信偈の「帰命無量寿如来」「南無不可思議光」もすべて同じお念仏です。そのお念仏の光に照らされていく、それは十方を尽くして碍り無き光です。その救いの光は阿弥陀仏の大悲大願。私たちに限りある人生を大切に生ききって、私のひらく浄土へと向かって歩いてきてくださいという願いを深く広い海にたとえます。

煩惱の「衆流」とは教如上人自身も含む私たちです。煩惱を抱えていく衆、私たち一人一人を、「衆流」と川の流れに

たとえます。川が必ず海にたどり着くように阿弥陀仏の浄土に私たちの人生が帰って行く。帰って行けば、仏の私たちに願う心すなわち大悲大願と同じ智慧のうしおに一味なりと。全て海の水の潮の味に一味となっていくのだと。

本願寺は分流したが、その流れは交わることはなかった。教如上人は、本願寺が二つに分流する始まりは自ら造った罪悪だと引き受け、ご門徒の願いに応えようと、その生涯を確かに歩んでいかれたのではないのでしょうか。罪悪を背負ったまま生きていけるのが親鸞聖人の教えであると心に刻み、曇鸞和讃を大切にし、十字名号に書き添えて意味をあらわし、手を合わせていかれたのではないのでしょうか。(終)



八尾別院蔵



御消息拝読(稱名寺 佐々木 祐住職)



御影道中到着(稱名寺)



御影道中出発(勸歸寺)



法要(稱名寺本堂)



組功労者宗務総長表彰



多保田清満教区門徒会長挨拶



大谷高等学校合唱部・教区女声合唱団沙羅の花による「回向」の合唱

法要曲「回向」
願わくは一切世界の人々と
この出会いの喜びを
みな平等に分ち合い
ともに仏になる心発して
阿弥陀みほとけの
安楽国に生れ
生きてはたらく身とならん

がんばろう 能登

「僧伽・散華」会

能登を応援し、現地ボランティア活動を支援するため、「僧伽・散華」会を支所（旧大聖寺教務所）に立ち上げました。僧伽は念仏申す仲間。散華は枯れても蓮華のように種（仏種）を未来に繋げて行くという名告りです。

1月「地震で再会」が始まりました
「和田浩氏（真宗大谷派僧侶）の年賀状、あの絵葉書でご支援やお世話になった方々にお礼状を書きたい」と。



震災の二次避難先、山代温泉で能登教区の住職、塚本真如氏から相談依頼され、絵葉書の再版が始まりました。

絵葉書から絵しおりを制作



7月 いのち再生への取り組み

廃棄処分になる布を能登から送っていただき、仏種（聖典カバー等）に再生する取り組みです。能登の被災地から届いた着物は留め袖・訪問着・振り袖でした。帯も立派で素敵なものばかりでした。

10月によやく完成！
同じ物がない一点物です



新真宗聖典カバー



一つずつ・少しずつ・精一杯

教区・自坊・自宅からのボランティア支援活動です。ほどこいて、作って、縫って…。実際は繊細な長時間作業でした。

次回活動日までに自宅で内職ボランティア寺井支部の方々も含め約20人で頑張っています。坊主さん女性部ご門徒さんありがとうございます。

- ① 着物・帯をほどこく作業
- ② 生地裏に裏芯を貼りアイロン
- ③ 補強に中芯を貼り裁断する
- ④ 合成バックスキンを貼る
- ⑤ ミシンで縫い完成

10月 11月の本山報恩講に向けて

本年報恩講には能登震災支援コーナーをお買い物広場に設置。そこへ「僧伽・散華」会にも出品要請があり、新たな目標となりました。



手芸が好きな方募集中

会の皆様方には自坊報恩講もある中で、本山報恩講に間に合わせるため、昼夜に亘る作業をお願いし心より感謝いたします。



僧伽・散華会
再生品一覧
聖典カバー
勤行集袋
念珠袋
筆記ケース
眼鏡ケース
輪袈裟
坊主輪袈裟袋
肩衣入れ勤行袋
スマホ袋
絵はがき
絵しおり

さらなる支援拡大には

震災2年目を迎え他教区への周知、支援拡大をどうするべきか課題になりました。全国展開も考えましたが、一針一針時間を掛けて作る再生品は、大量発注には対応できません。売り上げが目的でなく、あくまでも能登支援の輪を広げ繋いでいくことが目標です。

担ぎ売りを真似て自ら始動

能登震災支援のため着物・帯から再生した品々を展示しています。皆さまのご支援をよろしく願います。



大聖寺地区花まつり
願成寺（大聖寺鍛冶町）4月19日

全国議長会 2月26日 日本山

多くの方々より支援懇志を頂き当会より40万円を教区災害支援に寄付させていただきました。

お問い合わせ先 〒922-0117
石川県加賀市山中温泉上野町194
代表 二木利行 TEL 076-1178-11382

お念仏を子どもたちと

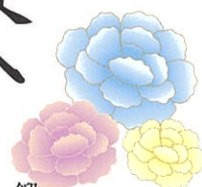
次世代のご門徒へ

教区としての宗祖親鸞聖人御誕生850年並びに立教開宗800年の慶讃法要を2027年5月22日(土)に厳修することが決定されました。

慶讃法要をお迎えするにあたり、最も重要なことは、慶讃法要を大切な機縁として、将来を担う子どもたちと次世代のご門徒にお念仏の尊さをお伝えしていくことです。

具体的事業としては、各地域において寺院・組門徒会等が中心となり、「花まつり」や「巡回法座」等を企画実施します。この実現のためには僧侶と門徒が緊密に連帯・協働することが肝要です。教えに遇い得た喜びをもって報恩の歩みとして共に力をあわせて取り組み組んでまいりましょう。

レポート



4月19日(土)、加賀市大聖寺鍛冶町の願成寺にて花まつりが開催されました。10時から勤行が始まり、その後白象行進がありました。境内や本堂にいろいろな遊びのコーナーがあり、できたての綿菓子を食べたり、お抹茶をいただいたり、子ども連れの家族からご年配のグループまで、約100名が楽しんでいました。

また、山門と本堂ご本尊前の2か所に花御堂が設けてあり、自由に灌仏したり甘茶を飲んだり、花まつりだからこそできる体験があります。

「去年来て楽しかったので、今年も来ました」という親子や「お寺さんによくしていただいているので」と学童の子どもたちを引率してきた方、「自分の子ども時代に花まつりで甘茶をもらった記憶があって懐かしい」と友人を

誘ってきた方など、参加のきっかけはさまざまです。「白象行進のルートは昔、大聖寺教務所がこの付近にあった頃のルートと同じように思う」という声も聞かれました。

この大聖寺地区花まつりは、有志による実行委員5人を中心に準備を進め、今年で5回目です。当日は他に10名以上のスタッフが関わりました。花まつりをこの地区で続けることで、お寺を身近に感じられるようになった方もいるでしょう。また子どもたちにとっては、楽しくにぎやかな空間で、家庭では少なくなった仏事に触れる機会になつていると思います。

加賀市德音寺

畠山三和子





2025 花まつり



5月11日(日)小松市月津町興宗寺にて花まつりが開催されました。コロナウィルス感染症の拡がりにより、毎月開かれていた子ども会が活動休止となり、花まつりも開催できずにいました。小松大聖寺教区の慶讃事業と小松大聖寺教区第1組の花まつりと合同開催という形で、久しぶりに開くことができました。

数年ぶりの開催ということもあり、以前子ども会にきてくれていた子どもたちのほとんどが中学生、高校生になっていること、同じ日にお花まつりが行われていることなど、参加者が少ないのではと心配もありましたが、大人含め約70名の方が集まっていた。盛大な花まつりとなりました。

勤行、法話に続き、お釈迦さまの誕生仏に甘茶をかけて、参加者全員でお釈迦さまの誕生をお祝いしました。

合同開催ということもあり、スタッフの人数も多く、興宗寺だけでは行うことが難しい白象パレードや多くのレクリエーションを行うことができました。なかでも段ボール迷路はとても人気で、子どもたちはとても楽しく遊んでいました。白象パレードでは、参加者や町内の方、すれ違う車に乗っている人までも、物珍しさに写真を撮られていました。

参加された方からは「花まつりに初めて参加したがとても楽しかった」「白象パレードと一緒に歩くのが楽しめで来た」などの声を聞くことができました。

以前のような毎月の子どもの会の開催はまだ難しいですが、今回の花まつりが再開していくきっかけになったと思います。夏休みや年末年始など、少しずつ行事を通して子ども会を再開していきたいと思っています。

小松市興宗寺

但馬諒

教区の主な聞法会のご案内

小松大聖寺教務所 常磐会館
(小松市小馬出町 26)

大聖寺教務支所 常葉会館
(加賀市大菅波町フ 8-1)

十二日講
毎月12日
●午前9時30分～11時30分

9月
兼常磐会館報恩講
加賀市 毫攝寺 出雲路 修氏

10月
福井教務所 都 真雄氏

11月
能登教区 仰信寺 直林 真氏

12月
金沢教区 浄専寺 平野 喜之氏

日曜講座
毎月第1・第3日曜日
●午前9時30分～11時

9月
7日 白山市 教願寺 鈴義 昌宏氏
21日 白山市 真成寺 杉浦 真信氏

10月
5日 小松市 燈明寺 塚谷 真樹氏
19日 加賀市 燈明寺 富樫 誓子氏

11月
2日 小松市 西照寺 日野 直氏
16日 小松市 浄誓寺 中谷 寧氏

12月
7日 能美市 道林寺 原 史成氏
21日 能美市 誓立寺 林 拡氏

示談講
隔月22日前後
●午後1時30分～3時30分

9月22日(月)
兼常葉会館報恩講
小松市 興宗寺 但馬 末利花氏

12月22日(月)
加賀市 上宮寺 山本 龍昇氏

小松大聖寺教区のお知らせは教区公式
ライン・ホームページもご活用ください



教区公式ライン
QRコード



教区ホームページ
QRコード

歩キナン大道ヨ
蓮如上人井波御下向
550周年記念御影道中

御影道中の行程は、
QRコードから確認
できます。



吉崎別院と井波別院とを結ぶ井波御下向御影道中が、9月27日、9月28日、
10月6日、10月7日に小松大聖寺教区区間を通過いたします。道中やお立ち
寄り会所で蓮如上人の御影をお迎えしましょう。



(H)

今号は郡中御影報恩講のご法
話を要約して掲載しています。
教如上人は石山合戦の中で多感
な青年期を過ごし、その人生は
大河ドラマにできるのではと思
うほど波乱に満ちています▼教
如教団が立ち上がるターニング
ポイント「文禄四年」に授与され
た加賀国能美郡四日講の御影は
まさしく教如上人とこの土地の
ご門徒の深いつながりの証だっ
たのですね▼春には大聖寺地区
願成寺、第1組興宗寺の慶讃花
まつりでにぎわいました。勤行、
灌仏、白象パレード以外にも工
夫を凝らした遊びがあり、お茶
など憩いの場もあり、小さい子
どもからご年配の方まで楽しめ
る内容でした▼来年は各地域で
慶讃花まつりが催されます。お
釈迦さまのご誕生を祝う行事が
さまざまな世代とお寺の接点に
なればいいと思います。

編集だより